

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ピレジキッズおきつ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和8年3月10日		～ 令和8年3月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの活動環境が整っている ・「活動スペースが十分」「環境配慮が適切」との回答が非常に多い ・子どもが「楽しく・心地よく参加できている」と全員が回答 ➔ 安心して過ごせる環境づくりが高く評価されている	特性に応じた環境調整を行っている ・活動の見通し提示や動線配慮など、子どもが安心して参加できる工夫を実施。 ➔ 子どもの主体性を尊重した環境づくりに努めている。	専門的支援の見える化不足 ・「支援の様子がわからない」という保護者の声の一部見られる。 ➔ 支援内容の伝わりにくさが課題となっている。
2	職員の支援が丁寧で適切 ・主活動に沿った支援、特性に応じた配慮が「はい」多数 ・職員アンケートでも支援の質に関する低評価がほぼなし ➔ 支援の質が安定しており、チームとしての連携が良い	情報共有を丁寧に行っている ・職員間の申し送りや記録を徹底し、支援の統一性を確保している。 ➔ チームとしての連携が円滑で支援の質を安定させている。	職員の業務負担と緊急時対応の差 ・記録や送迎などで負担を感じる職員がいる。手順理解の差も課題。 ➔ 業務効率化と緊急時対応の統一が必要。
3	保護者への説明・情報共有が丁寧 ・個別支援計画の説明、活動内容の共有などが「はい」多数 ・保護者コメントにも「丁寧」「安心できる」との声 ➔ 保護者との信頼関係が構築されている	保護者との連携を重視している ・送迎時の声かけや連絡帳、支援計画説明など丁寧な情報共有を継続。 ➔ 保護者が安心できる関係づくりを意識している。	活動スペースの狭さ ・「もっと広いスペースがほしい」という意見が複数あり、環境面の制約が課題。 ➔ 活動の幅を広げるための改善が求められる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的支援の見える化不足 ・「支援の様子がわからない」という声があり、専門的支援の内容が保護者に十分伝わっていない。 ➔ 支援内容の説明や共有方法の改善が求められる。	専門的支援の見える化不足の要因 支援内容が日常の中で自然に行われているため、保護者が直接目にする機会が少ない。また、支援の意図や根拠を説明する仕組みが十分に整っていないことも影響している。 ➔ 支援の伝達方法が不足し、理解されにくい状況が生じている。	支援内容の見える化 ・写真・資料の活用や説明機会の増加など、支援の透明性向上を図る。 ➔ 保護者が支援を理解しやすい仕組みを整える。
2	職員の業務負担と緊急時対応の差 ・記録・送迎などで負担を感じる職員がいるほか、緊急時対応の理解度に差が見られる。 ➔ 業務効率化と緊急時対応の統一的な研修が必要。	職員の業務負担・緊急時対応の差の要因 記録・送迎・準備などの業務が集中しやすく、担当の偏りが生じている。また、経験年数や研修参加状況の違いにより、緊急時対応の理解度に差が出ている。 ➔ 業務分担と研修体制の不均一さが課題の背景にある。	業務負担軽減と緊急時対応強化 ・記録の簡素化、役割分担の見直し、避難訓練の定期化を進める。 ➔ 職員が安心して働ける体制と安全性向上を両立する。
3	活動スペースの狭さ ・「もっと広いスペースがほしい」という保護者意見が複数あり、環境面の制約が課題となっている。 ➔ 活動の幅を広げるための環境改善が必要。	① 活動スペースの狭さの要因 現在の施設規模では、利用児童数や活動内容に対して十分な広さを確保しにくい状況がある。また、活動内容が多様化し、必要なスペースが増えていることも要因となっている。 ➔ 物理的環境の制約が活動の幅を狭めている。	活動スペースの改善 ・レイアウト見直しや外部スペース活用など、環境改善の検討を進める。 ➔ 子どもがより活動しやすい環境づくりを目指す。